

りや否やに付回答を求められた組合は之に對し本組合は組合員の意志に依て動きつゝある旨を確答し組合の命令なりや否やに就ては一切先方の判断に一任することとした。

本組合は此日を以て『郵船盟休に至るまでの日本海員組合の態度』を公表した。

同日午後四時頃郵船神戸支店長黒川新次郎氏より組合事務所にて面談したし差支の有無如何と問合せの電話ありたるも遺憾ながら差支ある旨答へ翌七日午前九時當方より會社を訪問する旨を約束した。

七日午前九時組合長は約束の通り郵船支店を訪問し應接室に於て黒川支店長に面會の席上に於て藤尾、鈴木の水火夫正副監督同席せられた双方の間に今回の盟休勃發を遺憾とする旨の挨拶を交換した後黒川支店長は極めて緊張の態度を以て今回の手當半減は決して屬員のみに限

りたるものに非らずして海陸社員上下を通じて一様に減額し海運界の不況に對し臥薪嘗膽以て會社の基礎を強くしたいと云ふに在る事情を述べて且曰く今朝出帆豫定の定期郵船賀茂丸の出港を停止するに至らしめたことは實に容易ならざる問題であつて何者か此責任を負はなければならぬ會社の調査した處に依れば本船屬員は家事の都合を理由として請暇願を提出せるも押して之を詰問すれば組合の命令なりと謂ひ一人として手當半減反對の意志を表示する者なし察するに此裏面には組合の力あること明白にして貴下の爲め甚だ不利の事實が擧つて居る加之今回の盟休は歐米先進國のものとは全く其趣を異にし何等の豫告なく出し拔けに定期郵船の出港を停止したるは一大罪惡たるを免れず併しながら之を決して貴下の意志に非らざることを確信し誠に氣の毒の感に堪へず願くは此際潔く本船を出帆せしめ然る後本問題を解決